

棚尾地区まちづくり事業

平成 26 年 6 月 19 日（木）19 時～

棚尾公民館 3 階

第 36 回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行（小笠原幸雄）

1 前回までのテーマに関する参考意見など

本村沿革記録，八柱神社の奉納品（屋外構築物編）など

2 テーマ 61 「水害の記録と排水路」

(1) 説明（磯貝国雄）

(2) 出席者による補足説明、感想など

3 連絡事項・情報交換など

4 次回日程

第 37 回 7 月 24 日（木曜日）午後 7 時から「棚尾の農業」

第 38 回 8 月 21 日（木曜日）午後 7 時から「安専寺と安藤圓秀」

「水害の記録と排水路」

1 要旨

棚尾は中心部が高台で周辺を低地帯が取り囲む地形なので、これまで水害には何度も遭遇してきた。記憶にある中では、昭和34年（1959）の伊勢湾台風はその最たるものである。全国の死者・行方不明者6,447名、碧南市でも死者11名、行方不明者1名と未曾有の被害を蒙った。又、近年は異常気象により想定以上の豪雨が頻繁に発生するようになり、常に水害への供えを怠ってはならない。

棚尾地区の排水路は堀川流域と雨池流域に二分される。主に弥生町、源氏町、汐田町、春日町、作塚町、沢渡町、栗山町の雨水は堀川を通過して衣浦港へ排出される。一方、棚尾本町、若宮町、志貴崎町、川端町、雨池町は雨池ポンプ場で蜷川へ排出される。

2 参考文献

- 碧南市史料 第22集「伊勢湾台風と碧南市」林口孝 発行昭和35年2月
碧南市史料 第50集「災害史」丹羽清 発行昭和54年9月
碧南事典

3 水害の記録

上記碧南市史料第50集「災害史」から棚尾に関連する水害を抜粋する。

西暦	和 暦	記 事
701	大宝元年	8月21日三河国外17カ国大風の被害。(続日本紀)
713	和銅6年	3月三河国大風、飢饉。
773	宝亀4年	3月17日三河国大風、飢饉。(続日本紀)
812	弘仁3年	三河国外31カ国に水害。
874	貞観16年	三河国風水害のため、年貢五分が免じられる。(日本三代実録)
1517	永正14年	7月大洪水。
1544	天文13年	大洪水、三河地方の民家が漂流し、人畜多数が死亡。

1570	元龜元年	暴風雨。
1574	天正 2 年	洪水。
1609	慶長 14 年	大洪水。
1610	慶長 15 年	大洪水。
1614	慶長 19 年	大洪水。
1624	寛永元年	矢作川が氾濫し、大浜の塩田が埋没する。
1627	寛永 4 年	9 月大洪水。
1636	寛永 13 年	8 月 4 日大風にて高潮、人が多く溺死。
1655	明暦元年	大洪水。
1664	寛文 4 年	大洪水。
1666	寛文 6 年	大雨。
1680	延宝 8 年	東海地方一帯が大暴風雨。
1691	元禄 4 年	洪水。
1701	元禄 14 年	8 月 17 日暴風雨。
1704	宝永元年	大洪水。
1705	宝永 2 年	矢作川の洪水。
1707	宝永 4 年	8 月 19 日大暴風雨。
1708	宝永 5 年	7 月 2 日大暴風雨。
1711	正徳元年	三河地方暴風雨。
1712	正徳 2 年	大暴風雨。
1713	正徳 3 年	大暴風雨。
1714	正徳 4 年	大暴風雨。
1721	享保 6 年	7 月 16～17 日大暴風雨。
1722	享保 7 年	8 月 14 日大風となり、翌 15 日朝七つ時、津波が来て伏見屋新田や平七新田の堤防が切れた。浸水による棚尾村の被害高 419 石余。
1729	享保 14 年	大洪水。
1736	元文元年	8 月 17 日大暴風雨にて矢作川が増水し、伏見屋新田の堤防が決壊した。この新田の修復を小田甚兵衛が放棄したので、江戸の加田屋藤五郎がこれにあたる。

1739	元文 4 年	大洪水にて伏見屋新田が決壊して、その修復のため築いた堤の高サ 9 尺、馬踏 9 尺、根敷 5 間。
1740	元文 5 年	三河方面に大洪水があり、伏見屋新田が浸水。
1742	寛保 2 年	洪水。
1750	寛延 3 年	大洪水にて伏見屋新田が浸水。
1752	宝暦 2 年	5 月 2 日矢作川が満水となる。
1757	宝暦 7 年	8 月大洪水。
1761	宝暦 11 年	大洪水。
1765	明和 2 年	4 月と 8 月の 2 回の洪水で矢作川が氾濫。
1767	明和 4 年	7 月 13 日洪水。8 月 4 日暴風雨にて矢作川の堤防が切れ、伏見屋新田、平七新田が浸水。
1773	安永 2 年	暴風雨。
1779	安永 8 年	8 月 22 日より三日間の豪雨。
1782	天明 2 年	6 月から 7 月にかけて大雨で農作物は不作。
1785	天明 5 年	西三河地方大洪水
1786	天明 6 年	8 月に暴風雨が三回ある。
1787	天明 7 年	3 月 12 日より 25 日間大暴風雨が続き、大飢饉となり白米が 1 升二百文から四百文となる。
1788	天明 8 年	5 月晦日及び 6 月 17～18 日に矢作川が出水。
1789	寛政元年	6 月 9 日～18 日降雨が続き、矢作川は大洪水となり岡崎方面から家が三軒流されてきた。
1790	寛政 2 年	8 月洪水にて矢作川の堤防が決壊。
1792	寛政 4 年	3 月 13 日三河方面大暴風雨。
1793	寛政 5 年	大雨続きで堀川の橋が全部落ちる。
1814	文化 11 年	旱魃。大洪水。
1815	文化 12 年	6 月 26 日～28 日大雨。矢作川が氾濫。
1816	文化 13 年	8 月 3～4 日豪雨。
1822	文政 5 年	洪水。
1828	文政 11 年	7 月 1 日矢作川大洪水。虫害もあった。7 月晦日にも大雨。
1832	天保 3 年	8 月に大風雨。

1834	天保 5 年	8 月 5 日、13～14 日大暴風雨。9 月にも 2 回大風。
1836	天保 7 年	5 月 18 日暴風雨。
1837	天保 8 年	8 月 14 日、24 日暴風雨、矢作川の出水により被害甚大。
1846	弘化 3 年	6 月中旬矢作川出水。
1849	嘉永 2 年	8 月 8 日大暴風雨で、矢作川の堤防が切れる。
1850	嘉永 3 年	8 月 8 日尾三地方は大暴風雨にて、洪水となり矢作川が氾濫。
1855	安政 2 年	7 月 26～29 日、8 月 20 日暴風雨、前浜新田・平七新田浸水。
1858	安政 5 年	7 月 24 日矢作川が出水。
1860	萬延元年	大暴風雨があり、畑作殆ど全滅。
1864	元治元年	矢作川の堤防が決壊。
1866	慶応 2 年	7 月～8 月にかけて大雨続きで、物価高騰。
1870	明治 3 年	暴風雨。
1872	明治 5 年	暴風雨。
1878	明治 11 年	洪水。
1880	明治 13 年	8 月 25 日暴風雨。
1881	明治 14 年	9 月 13～14 日暴風雨、棚尾では八柱神社、神明社の樹木も 30 本ばかり倒れる。住宅 24 軒、別宅等 63 軒が倒れる。
1882	明治 15 年	10 月 1 日矢作川未曾有の洪水で、棚尾では農船 14 隻が流出、コレラ病が出て女性 1 名が死亡。
1886	明治 19 年	9 月 17 日午後 7 時頃高潮が押し寄せる。
1889	明治 22 年	9 月 11 日大暴風雨となり、午後 6 時頃高潮。使役人 4 名溺死。棚尾村の記録によると田 21 町歩、畑 40 町歩が浸水。
1892	明治 25 年	9 月 4 日三遠地方は暴風雨。
1896	明治 29 年	8 月 30 日～9 月 1 日暴風雨。棚尾村役場の報告によると道路決壊 1 箇所、水冠反別 19 町歩、家屋の全倒 2 戸、半倒 4 戸、大破 15 戸、小破 33 戸、田の埋没流出 7 反、浸水 51 町歩、畑の浸水 4 反。同月 8 日、同月 11 日も暴風雨。
1897	明治 30 年	9 月 29 日暴風雨。矢作川堤防切れる。
1898	明治 31 年	6 月 9 日暴風雨。9 月 6 日暴風雨。棚尾で堤防欠所 121 間 5 合 損失価格 187 円 12 銭 9 厘

1899	明治 32 年	8 月 31 日～9 月 1 日暴風雨。
1900	明治 33 年	9 月 9 日暴風雨にて棚尾で死者 1 名が出る。
1901	明治 34 年	7 月 3 日大雨。
1903	明治 36 年	7 月 9 日暴風雨。
1904	明治 37 年	7 月 10 日暴風雨で矢作川が増水し棚尾橋も落ち、しばらく渡舟で往来する。
1907	明治 40 年	8 月 15 日暴風雨。
1908	明治 41 年	8 月 7 日大暴風雨。
1910	明治 43 年	8 月 10 日豪雨。
1911	明治 44 年	6 月 19 日大暴風雨。8 月 4 日台風被害甚大で棚尾村の記録によると全壊家屋 1 戸、田の浸水 12 町 2 反歩、畑の浸水 3 町 2 反歩。
1912	大正元年	9 月 22～23 日数十年来の大暴風雨。高潮も襲来。
1919	大正 8 年	9 月 16 日暴風雨にて棚尾橋の一部が流出する。
1921	大正 10 年	8 月 27 日暴風雨。
1925	大正 14 年	9 月 11 日大暴風雨。
1926	大正 15 年	9 月 3 日、同月 17 日暴風雨。
1931	昭和 6 年	10 月 13 日暴風雨、矢作川の堤防決壊。
1932	昭和 7 年	10 月 13 日暴風雨。矢作川大洪水、矢作川の船紡績は姿を消す。
1933	昭和 8 年	矢作川が国の直轄河川となる。米津橋～棚尾橋の改修に着手。
1934	昭和 9 年	9 月 21 日室戸台風。
1935	昭和 10 年	8 月 29 日水害。
1937	昭和 12 年	7 月 14～16 日大豪雨。
1948	昭和 23 年	9 月 25 日台風。
1950	昭和 25 年	9 月 3 日ジェーン台風。
1951	昭和 26 年	10 月 15 日ルース台風。
1952	昭和 27 年	ダイナ台風。
1953	昭和 28 年	9 月 24～25 日。13 号台風の原因が碧南を通った。通過時の中心気圧 960、風速 30m/秒こえる。通過時が満潮と重なったので、潮位が平常時より 2m も高くなり、被害を大きくした。蜷川や油ヶ淵の堤防が決壊し、高潮は新川、大浜などの海岸を襲った。

		全壊 70 戸、流出 30 戸、床上浸水は 1700 戸にも及んだ。耕地の冠水は 1300ha にわたり、碧南市の被害総額は 19 億 7 千万円にも達した。災害救助法が発令され、愛知県下では碧南市が初めてであった。
1959	昭和 34 年	9 月 26 日。伊勢湾台風。中心気圧 930、最大風速 60m/秒という超大型台風で、潮岬に上陸後名古屋の西を通過した。強風と高潮で全国の死者 5,041 名、被害家屋 57 万戸
1961	昭和 36 年	6 月 26 日梅雨前線と熱帯低気圧で集中豪雨。
1962	昭和 37 年	7 月 27 日三河山間部で大雨
1965	昭和 40 年	9 月 17 日台風 25 号矢作川上流で大雨
1969	昭和 44 年	8 月 4 日台風 7 号による大雨
1971	昭和 46 年	8 月 30 日台風 23 号による大雨
1972	昭和 47 年	7 月 12～13 日藤岡町など西三河山間部で集中豪雨。死者 64 名。総雨量 289mm
2000	平成 12 年	東海豪雨。
2008	平成 20 年	8 月 28～31 日。岡崎市で県内観測史上最大の 1 時間 147mm

3 明治 22 年の水害

三河を中心に 876 人の死者が出る。2m 余の高潮で海岸 7 箇所、前浜新田 8 箇所の堤防が切れ、前浜新田では死者 10 人、家屋は残らず流出した。前浜新田には使役中に水難死された 4 人の慰霊碑がある。市内の溺死者 26 名。13 号台風と似た被害が発生した。

(1) 前浜水難慰霊碑

場所 河方町 1 丁目 前浜用水機場

(碑の表面)

法名 釈智照 釈恵空 釈圓了 釈証○

(碑の裏面)

明治二十二年己丑九月十一日夕堤塘防禦就役中海嘯之為終没

俗名 藤浦久助 永井卯之助 鈴木仙松 辻徳次郎

当時情況 海嘯襲来自上潮高九尺餘堤塘切所八箇所濤迫長三百八拾餘

間欠壊所延長二千二百三拾餘間而土砂堆積干耕地属干荒蕪
拾有八町步餘而焉

建設者地主総代 山中七十郎 油谷又三郎

竣工 明治二十三年七月 土工総代 油谷又三郎識

4 伊勢湾台風

(1) 全国的視野からみた過去の大型台風との比較表

名称	年月	上陸地付近の最低気圧	最大気象潮(平常より高くなった数値)	死者・行方不明者
室戸台風	昭和9年9月	911.9mmb	3.1m(大阪港)	3,036名
枕崎台風	昭和20年9月	916.6mmb	2m以上(鹿児島湾)	3,122名
13号台風	昭和28年9月	953.3mmb	1.4m(浦神港)	478名
伊勢湾台風	昭和34年9月	929.5mmb	3.6m(名古屋港)	6,447名

(2) 気象数値

18時18分 潮岬付近に上陸、 中心最低気圧 929.5mmb
時速70kmで北東。

21時25分 名古屋通過時 中心気圧958mmb
瞬間最大風速45.7m/s 最大風速 37m/s
名古屋港の最高潮位 3.89m

21時 碧南の観測 風速 47m/s
時間雨量 70mm
大浜港の高潮 3.6m

(3) 碧南市の被害状況

死者 11名 行方不明1名。

全壊戸数473戸、流出56戸、半壊1,065戸

床上浸水1,213戸、床下浸水805戸

田の流出(埋没)50ha、田の冠水830ha、畑の冠水663ha

(4) 復旧の様子分かる資料

10月1日付で市役所から全市配布した「お知らせ」文(ガリ版刷)

昭和34年10月1日碧南市災害対策本部情報第1号

9月26日襲来した台風15号により被害を受けられた市民のみなさんに心から

お見舞い申し上げます。市災害対策本部は、全力を挙げて救援並びに復旧に当たっています。

◎ 五地区六ヵ所に対策本部の支所を設置

新川＝千福公民館、大浜＝消防会館、棚尾＝棚尾公民館、旭＝霞浦会館、鷺塚小学校、西端＝西端公民館

◎ 救護物資の配給

住居が全壊、流出、半壊、床上浸水のご家庭へ近く救護物資（金物、衣料など）を配給します。但し、配給は隣組を通じてチケットをお渡ししますから、希望の店の必要な品のある店でおもとめ下さい。

◎ ローソクの配給

近日中に市内全家庭へ1戸5本宛配給する予定。

◎ 電気について

10月2日には一部に送電されることとなっています。

◎ 電話について

9月30日現在約400軒に通話できるようになりました。ただいま地地下ケーブル線を修理中です。

◎ 消毒剤を配布

浸水家庭でひどくよごれて地域には逐次乳剤撒布をしていますが、近く全区字に次の消毒剤を配ります。

1 チョロックス（井戸水消毒用） 2 クレゾール（手洗い、よごれたものを洗うに、水でうすめて使う） 3 消石灰（便つぼの周囲やし尿でよごれたところに撒いて下さい）

◎ ごみ、割瓦、し尿など

川、池、海、溝へ捨てないように

- 1 焼けるごみは焼き捨て、腐敗しやすいものは、穴を掘ってうめて下さい。
- 2 割瓦などは庭の片すみにかためて下さい
- 3 し尿は農家で消費してもらうか、近くの肥料だめに入れ、収用出来ないものは穴にうめて下さい。

◎ 旧大浜小学校に無料救護所を設置

10月10日まで午後1～4時診療します。

◎ 災害復興住宅資金の貸付

災害当時住宅を所有し使用していた方で居住する家の必要な方に貸付する。

◎ 中小企業者へ臨時融資

災害を受けた中小企業者の復旧資金として以上二つの詳しいことは商工課へ

◎ 第二種農業共済保険の支払い

◎ 風水害犠牲者（死亡） 11人に市から弔慰金（一人五万円）をおおくりしました。

(5) 碧南市史料第22集「伊勢湾台風と碧南市」の序文 碧南市長 中村庄太郎

地を離れて人は無い。碧南の地形を考えないで碧南人士の生活は無いのである。そもそも碧南の土地たるや、微高の洪積台地は僅かに三分の一を占め、三分の二に当る碧南の大部分は沖積低地である。数百年の昔から、先人が苦勞を重ねて浅海を干拓したものである。換言すれば、碧南の大部分は昔の海であって、現在海面と同一高度である。故に一度海岸堤防、河川堤防が決壊すれば、忽ち以前の海に復帰する恐れが多分にある。しかも矢作川は年々その河床を高めており、現在前浜新田は矢作川より七尺の低位置にある。

海と同じ高度の土地、河床より低い新田、その上、四面が水に囲まれている。北は油ヶ淵、東は矢作川、西と南は衣浦湾であって、市民は日夜、水の恐怖から脱することは出来ない。平時は、人類は自然を征服し得たりと豪語し得ても、一度自然がその威力を発揮した場合、人類はその暴威の前に雌伏せざるを得ない。殊に本市において然りとする。 以下省略

(6) 棚尾地区に関する記録

ア 避難所の内棚尾地区分

棚尾公民館 9月26日～10月20日 25日間 805人

妙福寺 9月26日～10月2日 7日間 780人

光輪寺 9月26日～10月2日 7日間 414人

イ 応急仮設住宅の内棚尾分 源氏

ウ 市内死亡者の追悼法要

11月30日 棚尾妙福寺で、市内死亡者の追悼法要がしめやかな中にも盛大にとり行われた。

